日経平均株価
２万７１２２円０７銭
▼１１０円８０銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１９２４．３１
▼６．９３（前日比）

株式市場新聞
www.marketpress.jp
2022
2/21
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒530-0005
大阪市北区中之島４－２－２８甲南アセット中之島ビル
TEL 06-6105-1904

波乱下でも強いゲーム

任天堂、カプコン、スクエニに注目

国内外のマーケットは欧米の金融政策引き締めとウクライナ情勢緊迫化を受けて波乱の動きとなり、業績好調でも売り叩かれた銘柄が数多いが、その中で先の第３四半期決算の好調が反映される形で株価が堅調なのがゲームセクターだ。一時は半導体不足によるハードの販売停滞が足枷になっていたが、ＰＣでのゲームユーザーが増えるなかでその懸念は後退した。原料高などの影響も受けないことから、不透明感漂う状況下では安心して買える銘柄になっている。

ハード停滞もＰＣ増える

ゲームセクターに関しては昨年夏以降、デルタ株の感染鎮静化と緊急事態宣言解除を契機に軟調な株価推移となっていたが、オミクロン株の急速な感染拡大を受けて自宅で気軽に楽しめるアミューズメントとして見直す動きになってきた。その筆頭は１月１４日の５万１４５０円を底に上昇基調となっている**任天堂**（７９７４）。ニンテンドースイッチは半導体不足によるハードの売れ行き鈍化を指摘する向きもあったが、既に累計１億台普及していることから、売れるソフトを作れば不安はない。２２年３月期は通期連結営業利益で５２００億円から５６００億円（前期比１２・６％減）へ上方修正しているが、「マリオパーティ スーパースターズ」などの好調持続から更なる上振れの期待がある。

カプコン（９６９７）も１月１４日の２４２１円を底に上昇基調。２２年３月期は連結営業利益で４２０億円（前期比２１・４％増）を計画、既に「バイオハザードＲＥ：３」はＰＣ版が寄与、第４四半期は新たにＰＣ版「モンスターハンターライズ」も投入するなどＰＣ向けが牽引している。

スクウェア・エニックス・ホールディングス（９６８４）も２２年３月期は連結営業利益で４０００億円から５０００億円（前期比５・９％増）へ上方修正した。３月１８日には大型ソフト「ＳＴＲＡＮＧＥＲ ＯＦ ＰＡＲＡＤＩＳＥ ＦＩＮＡＬ ＦＡＮＴＡＳＹ ＯＲＩＧＩＮ」の発売が控えている。

バイオハザードＲＥ：３は
５００万本を突破した！

日経平均日足チャート

前週の動意銘柄

石油関連は逆行高

原油先物7年4カ月ぶり高値

週明け14日、INPEX（1605）や石油資源（1662）の鉱業やコスモエネルギーホールディングス（5021）、出光興産（5019）など石油元売りを含めた石油関連株が逆行高。ウクライナ情勢の緊迫化を受けたエネルギー需給がひっ迫懸念から、NY原油先物市場でWTIが3連騰、約7年4カ月ぶりに高値を更新したことで関連株に買いが広がった。

サンバイオ承認申請へ

サンバイオ（4592）がストップ高。国内SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの「先駆け総合評価相談」の終了に伴い、承認申請の準備を開始すると発表した。先駆け審査指定制度は審査を短縮し、承認申請から承認までの期間を6カ月にすることを目標にした制度。1月31日付けで医薬品医療機器総合機構（PMDA）から申請確認文書を受けており、今後1カ月程度で承認申請を行う見込みとしている。

スノーピク大幅増収益

15日、スノーピーク（7816）がストップ高。22年12月期の連結業績は、売上高3327億円（前期比27・2％増）、営業利益52億3200万円（同37・0％増）と大幅増収増益を見込んだ。新規顧客開拓へ体験型店舗・卸売を強化、ハイエンド商品など提案する。期末一括配当予想は12円（前期実績10円）に増額する計画。

リクルト上振れ期待後退

リクルートホールディングス（6098）が大幅続落。22年3月期第3四半期累計の連結営業利益は3335億8600万円（前年同期比2・3倍）と急拡大したが、前年同期比3倍に拡大した第2四半期累計からは増益率が鈍化しており、上振れ期待が後退した。有料求人広告利用は増えたが、旅行、飲食がGoToキャンペーン効果の反動減になった。

セレス一転大幅減

セレス（3696）がストップ安。21年12月期の連結営業利益は23億5000万円（前期比54・0％増）で着地したが、22年12月期は14億円（前期比39・3％減）と一転大幅減益を見込んだ。有料広告などを前期に計上した反動で利益が減少する。

アサヒインテックS高

朝日インテック（7747）がストップ高。22年6月期第2四半期累計の連結営業利益が従来予想の66億6100万円に対して81億100万円（前年同期比31・0％増）と計画超で着地した。メディカルとデバイスが想定以上に好調に推移した。

日金属非鉄異形圧延技術

16日、日本金属（5491）が急伸。非鉄異形圧延の量産技術を確立した。切削加工で成型していた形状を異形圧延で加工することで省資源化・省コスト化を実現、アルミ、マグネシウム、銅、チタン、ニッケルなどの非鉄などで、さまざまな要求に対応可能で、EV関連などのニーズに応えていく。

正直じいさんの株で大判小判

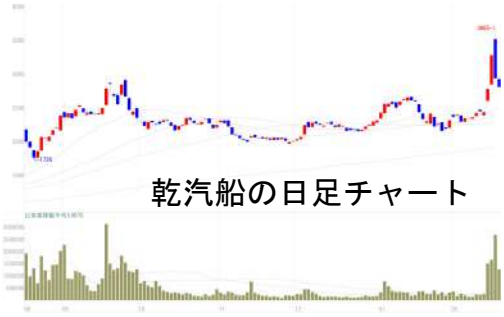
核合意再建で変化の兆し

前週の東京市場はウクライナ情勢に振らされ、3週ぶりに反落しました。日経平均は週間で約570円下落しています。前の週に下げ幅の半値戻しを達成して当面の底が入ったかたちにはなりましたが、25週線を上回ることができず、まだ下値への警戒が解けません。ウクライナ情勢について判断がつかず、エネルギーや資源価格への上昇圧力を通じて米金融政策に影響を及ぼすだけに注意が必要でしょう。また、地政学リスクが高まると米債が買われる利回りが低下するという複雑な状況になっています。

週明け21日京市場も23日子見のなか外部が続きそうです。ただ、米国とイランの核合意再建交渉により、原油価格が頭打ちになるなど変化の兆候があり、明確な反転を待つ考えです。花咲 翁

乾汽船S高で新値追い

今3月期上方修正で買い呼ぶ



16日、乾汽船（9308）がストップ高で連日の高値。22年3月期の業績予想を連結営業利益で104億6600万円から121億8300万円（前期12億3300万円の赤字）へ上方修正したことで買いが買いを呼んだ。第3四半期の外航海運事業におけるハンディ船の市況は、前回予想を上回る水準で推移、引き続き堅調な市況が継続することが見込まれる。

ツバキナカ減益で減配

ツバキ・ナカシマ（6464）が急落。21年12月期の連結営業利益58億1600万円（前の期比61・1％増）と大幅増益だったが、22年12月期は56億5000万円（前期比2・9％減）とわずかながらも減益を見込み、年間配当を30円（前期44円）に減配とすることが嫌気された。欧州ローラー事業集約関連費用や一時的な生産中断が響く。

電鉄経済再開と運賃改定

17日、名古屋鉄道（9048）や京阪ホールディングス（9045）、相鉄ホールディングス（9003）、小田急電鉄（9007）、近鉄グループホールディングス（9041）、京成電鉄（9009）、京浜急行電鉄（9006）など私鉄やJR株を含めた電鉄株が高い。国内の新型コロナウイルス新規感染者数が減少に転じたことで、経済再開への期待から買いが向かっており、国土交通省がコロナ禍を踏まえ、時間帯に応じて変動する運賃を機動的に導入できる制度などを議論すると伝わったことも支援材料になった。

公開価格98％上回る

エッジテクノの初値

エッジテクノロジー（4268）が東証マザーズに新規上場、公開価格350円を98・28％上回る694円で初値が生まれた。AI実装の支援とビッグデータ解析コンサルティングを行う。

～決算情報～

クボタ

19%増収41%営業増益

前期は農業・建設機械大きく伸びる

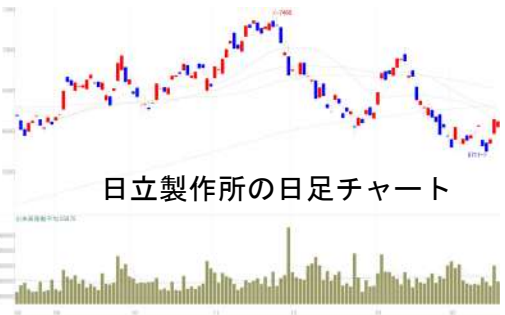
クボタ（６３２６）の２１年１２月期の連結決算は、売上高２兆１９６７億６６００万円（前期比１８．５%増）、営業利益２４６２億７００万円（同４０．５%増）、最終利益１７５６億３７００万円（同３６．７%増）で着地。収益拡大に伴い年間配当を４２円（前期３６円）へ増配する。水・環境部門は減少したが、農業機械や建設機械が大きく伸び、増収と円安効果で原材料価格や物流費高騰などのコストアアップを吸収、持分法投資利益も利益を押し上げ、大幅増収増益になった。

２２年１２月期は売上高２兆４５００億円（前期比１１．５%増）、営業利益２５００億円（同１．５%増）、最終利益１７８０億円（同１．３%増）と慎重に見積もった。為替は１ドル１１４円、１ユーロ１２８円を想定。

日立製作所は急伸

利益成長と自社株買いに期待

日立製作所（６５０１）は急伸。モビリティ事業を集めた。グループ事業再編による収益力強化にポイントを置いた成長シナリオと利益拡大に伴う自社株買いなどの還元強化が予想されている。



日立製作所の日足チャート

半導体装置大手大幅安

週末１８日、東京エレクトロン（８０３５）、レーザーテック（６９２０）の半導体製造装置大手が大幅安。米株市場でアプライド・マテリアルズやエヌビディアなど半導体関連株が決算を受けて売られた流れが波及した。アプライドは２Ｑの慎重な見通し、エヌビディアは１Ｑ強気も４Ｑの粗利率悪化が嫌気された。

前週の動意銘柄

石油関連利益確定売り

ＩＮＰＥＸ（１６０５）や石油資源（１６６２）の石油関連株が反落、東証業種別株価指数で鉱業が下落率トップになった。米国とイランが進める核合意の再建交渉が進ちょくするとの見方から、イラン原油の市場放出による需給の悪化が警戒され、ＮＹ原油先物ＷＴＩが一時１バレル９０ドルまで下落したことから当面の利益確定売りが優勢になった。ＥＮＥＯＳ（５０２０）や出光興産（５０１９）、コスモエネルギーホールディングス（５０２１）などの石油元売りなどを含めた石油関連全般に売りが広がった。

ブロードエンタS高

ブロードエンタープライズ（４１５）が連騰、ストップ高まで買われた。１６日の取引終了後、２１年１２月期決算説明資料を発表していることが引き続き注目された。２０２２年以降は、サブスクリプションの積み上げとイニシャル売上による増収増益を実現していくとしている。

転ばぬ先のテクニカル

歴史は繰り返す

先週の東京株式市場は反落。ウクライナ情勢が俄かに緊迫化し、情勢を伝えるテロップ一本で上下に揺れる一週間でした。こうなるとテクニカルなど当てになりません。投資家心理の傾きに一喜一憂するだけでトレンドなどありません。戦争はある意味数年に一度は起こっています。その度に投資家は大騒ぎし、株価は激しく乱高下致します。

しかし、結果的に戦争で下落したところが絶好の買い場になりました。まだ、暫くはこの乱高下は続くことでしょう。しかし、２０１４年２月にロシアがウクライナへのクリミア半島侵攻時と同じことが繰り返されるのではないでしょうか。足元ではリスク回避の動きが出ますが、もし戦争が始まれば株価は織り込み済みという答えを出すのではないかと考えます。相場は相場に聞けと申します。冷静に買い場を探す局面でしょう。

日々勇太朗

～決算情報～

新コスモス電機

上方修正で連続最高益

今3月期海外中心に伸び円安も

新コスモス電機（６８２４）は２２年３月期通期の連結業績予想について、売上高を３２０億円から３２８億５０００万円（前期比１１．１％増）、営業利益を３２億円から４４億８０００万円（同３０．０％増）、最終利益を２２億５３００万円から３１億５０００万円（同２８．１％増）に上方修正、前期に続いて最高益更新を見込んだ。

コロナ禍の影響が緩和され、北米を中心に海外市場が回復、家庭用ガス警報器、工業用定置式ガス検知警報機、業務用携帯型ガス警報器、いずれも売り上げを伸ばしており、原材料価格上昇などのコストアップを円安効果で吸収する。

第３四半期累計は売上高２４３億９３００万円（前期比１８．８％増）、営業利益３６億２９００万円（同６３．８％増）、最終利益２４億４１００万円（同６３．１％増）で着地した。

DmMiX

22年12月期も最高業績

金融・不動産・モビリティ分野に意欲

ダイレクトマーケティングミックス（７３５４）の前２１年１２月期は、連結売上収益で３０２億８６００万円（前の期比３４．８％増）、営業利益４７億８０００万円（同３３．３％増）と大幅な増収増益かつ過去最高業績で着地した。

マーケティング事業では既存顧客や新規クライアント向け業務受託が順調に推移したことに加えて、新型コロナワクチン接種業務が寄与、大規模な戦略的投資を吸収して大幅な増益となった。

今期は売上収益で３２５億円（前期比７．３％増）、営業利益で５０億円（同４．６％増）と引き続き過去最高を見込む。新型コロナワクチン接種業務は１～２月分は計画に入れているが更に受託が増えれば上乗せ要因になる。**小林祐樹代表取締役ＣＥＯ**は金融・不動産・モビリティ分野に意欲を見せている。

AIで気軽にアイトレーニング

「アイトレーナーⅡ」1週間で目標の1000%

たけむら
武村昭男社長に聞く

2月7日からGREEN FUNDINGで開始したAI搭載のトレーニングメガネ「アイトレーナーⅡ」のプロジェクトが一週間で目標の1000%を超える好スタートを切った。開発者で「MURAMO」ブランドを展開する（株）たけむらの武村昭男社長に商品の魅力を聞いた。

アイトレーナーⅡ

ベイスターズ選手も高評価!!

―「MURAMOアイトレーナーⅡ」はどんな商品ですか？

武村社長 AI（人工知能を使った）センサー搭載のアイトレーニングメガネです。着用するだけで電源がONになり、フロント部のセンター部分をタッチするとシャッタースピードを5／10／15／20Hzで調整することが可能で、AIセンサー搭載点滅レンズによる見え辛さでアイトレーニングをサポートします。AIセンサーを目標物の速さに調整して、その軌道を見たり、止まっているかのように見ることができ、眼の筋力の向上を目指すアイトレーニングメガネです。「THE眼球トレーニング見るだけ動体視力アップ」などの無料スマホアプリを使用すれば効率良くアイトレーニングが可能です。

―「MURAMO アイトレーナーⅡ」を商品化するキッカケを教えてください。

武村社長 スマートフォンの普及とともに、大人から子供まで一日中画面から眼を離せない中毒症状の人が増え、眼を取り巻く環境が大きく変わりました。そこで、酷使する眼の筋肉をトレーニングできる現品を開発しました。

―アイトレーニングのメガネは他にも存在しますが、それらと「MURAMO アイトレーナーⅡ」の違いを教えてください。

武村社長 他社の商品のことはわかりませんが、AIセンサーを搭載することで、年齢を問わず簡単に眼の筋肉のトレーニングができることが特徴です。例えば、車を運転してるとき、高速道路を走った後に一般道を走ると、景色が止まったようにゆっくりとハッキリ見えることがあると思います。毎日1日3分程度、アイトレーナーを装着してトレーニングを続けると個人差はあると思いますが、同じような感じになると思います。

―横浜DeNAベイスターズの選手も試されたそうですね？

武村社長 プロジェクトメンバーの先輩である上茶谷投手や球団の選手達にも使用していただき高評価を頂きました。

―「アイトレーナーⅡ」はどのようなユーザーがターゲットですか？

武村社長 スマートフォンやパソコン、テレビなどの画面を視る頻度が多いなど、目を酷使する方をターゲットにしています。

―「MURAMO アイトレーナーⅡ」を使用する上での需要なポイントを教えてください。

武村社長 毎日3分でいいので続けることが重要です。最初は1番早いシャッタースピードでスタートしましょう。慣れてきたら徐々にスピードを落としてトライしましょう。少しの時間でもよいので、着用し作動させて眼の筋肉のトレーニングをしてください。

潮流

内需株に優位な環境!!

新規感染者数ピークアウトが追い風

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

marKet bAnk

ウクライナとロシアとの軍事的緊張リスクが高まる中、市場に伝わるニュースで株式市場が乱高下している。

米政府が在ウクライナ米大使館勤務の米国人職員に国外退去を命じ、今にでもロシアとウクライナが開戦するのではないかという緊張感が高まって、１４日の日経平均は６００超急落した。ロシア国防省は１５日、ウクライナ国境近くで軍事演習をしていた部隊の一部が撤収を始めると発表した。この報道を受けて、米国株式市場が大幅上昇となり、１６日の日経平均は寄付きから急反発し、６００円近く上昇して終えた。

また、１７日の東京市場で１２：５０頃にロシアの国営通信社スプートニクが親ロシア派武装勢力の実効支配する地域で「ウクライナ軍が砲弾と手りゅう弾を発射した」と伝わると、ＣＴＡによる「円買い・２２５先物売り」のプログラム自動売買が拡大して、２２５先物は１０分ほどで３６０円売られた。日々、ＣＴＡやヘッジファンドのプログラム自動売買で日本株は乱高下し、個人投資家が参加するにはリスクが高い状態が続いている。

また、１６日の大幅上昇で日経平均寄与度が最も高い銘柄は東京エレクトロンとアドバンテストだった。ハイテク値がさ株の上下が日経平均を大きく左右させる。ＣＴＡやヘッジファンドも株式市場を下げさせたい時には値がさハイテク株に売りを仕掛けることはよくあることだ。

オーエスジーの日足チャート

ただ、１７日に外国人投機筋が２２５先物を売ってきた時でも、東京エレクトロンとアドバンテストは上昇した。徐々に株式市場にも好転の兆しが見え始めている。また、今年に入り内需株が外需株をアウトパフォームする展開が続いている。

日本国内における新型コロナウイルス新規感染者数のピークアウト期待が内需株優位に働いているようだ。野村証券は１０日付リポートで、「春先から加工・輸出セクターが有利との見方は維持する一方、３月半ばまでは内需・ディフェンシブ株に有利なマクロ環境と考える」と指摘している。ＣＡＴｓ新規感染者数「動的予測」によれば、東京都の新規感染者数（みなし陽性者は含めず）は、７日間移動平均でみて２月８日にピークを付けた後、減少中としている。足元では内需株にとって優位な環境が続いている。

潮流銘柄は**オーエスジー**（６１３６）、**信越化学工業**（４０６３）、ＴＨＫ（６４８１）。

3月半ばまでディフェンシブ株

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

過剰反応するアルゴリズム

～ウクライナ危機～

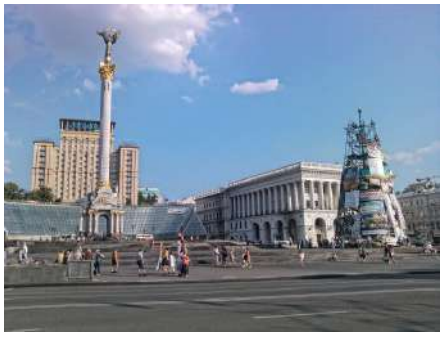
侵攻すればそこがピーク

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約５７４円安となり３週ぶりに週足陰線となった。先週はウクライナ危機のヘッドラインニュースにアルゴが過剰に反応し、上下する方向感の無い展開で結局下落した。週末時点では今週の後半にロシアのラブロフ外相と米国のブリンケン国務長官の会談が決まったことから、それまではロシアの侵攻はないと思われる。

それ故、急にアルゴが反応するケースは減ると思われるが、警戒は続くので方向感の無い相場展開には変わりないだろう。以前、北朝鮮がミサイルを発射するたびにアルゴが反応して売られていたが、今は花火のように発射されているが一切反応していない。ウクライナ問題ももし侵攻したとしてもそこが反応のピークとなりその後はあまり反応しなくなっていくと思われる。



キエフの街

NYダウの日足チャート

先週の動きを見てると２万７０００円を割れると買いが入っているが、２万７５００円以上では売りが出やすい状況であった。

チャートでは下値は週足の一目均衡表の雲の下限（２万６７９７円処）が意識されている。日足で割れても週末引け値で雲の下限を上回っており、この水準が下値抵抗ラインとしてのポイントであろう。

日経225先物日足チャート

逆に明確に週末引け値で割れてくれば下値模索の展開になると思われる。

一方、上値は下降する２５日移動平均線（２万７３５０円処）が意識されよう。この水準には日足の転換線（２万７３０３円処）も位置し売りが出やすい水準となろう。抜けてくると１４日の窓埋め値（２万７５７５円０７銭）をターゲットにした動きになろう。

今週は２３日が休みになるので４日立ち合いとなる。チャートは三角持ち合いの形になってきており、今週も継続されると予想する。相場レンジは２万６７５０円～２万７６００円を想定する。

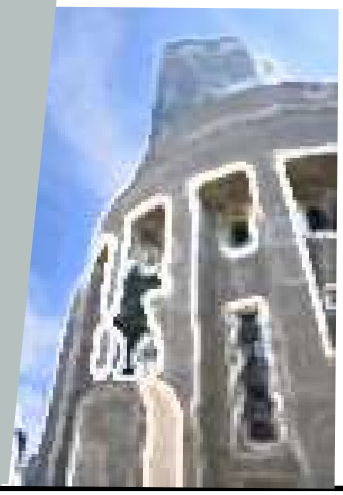
（ハチロク）

星野三太郎の株街往来

～ハードル高いＥＶ普及～

昨年末から電気自動車（ＥＶ）に絡む話題が増えてきた。既にホンダは２０４０年までにエンジン搭載車の新車販売をすべて無くす方針を打ち出していたが、水素エンジン搭載車をレースで走らせていたトヨタも昨年１２月に約３０車種の新型ＥＶを披露して大々的にプレス発表を行った。

欧州や中国を筆頭に次世代環境対応車の本命はＥＶで動いていることから、日本の大手メーカーも流れに乗るのは当然の流れだろう。ただ、改めて感じるのは充電インフラが本当に普及できるのか？という不安だ。戸建ての居住者は駐車場にコンセントを引き込めば問題ないが、マンション居住者はそうは簡単ではない。筆者の知人の話を聞いても、ＥＶを購入したのは良いが、充電設備の市役所まで充電に出掛けるの面倒だと語っていた。政府が設置に補助金をだせば設置も可能になるのはと思ったが、排水設備などの大規模修繕費用の捻出で悩むマンション管理組合が、補助金が出るとしても充電設備を設置できるほど余裕はないとのこと。目標はできてもＥＶが定着するハードルは高い。



New product

イオン　カラスガレイのみぞれ煮弁当

オリジン東秀が期間限定販売

カラスガレイのみぞれ煮弁当

イオン（８２６７）グループのオリジン東秀は「カラスガレイのみぞれ煮弁当」を期間限定で販売している。

「カラスガレイのみぞれ煮弁当」は粉を全体にまぶし、サッと油で揚げたカラスガレイを、たっぷり粗めの大根おろしが入った煮汁で仕上げている。カラスガレイのふっくらした身と煮汁が絡んだトロッとした衣がご飯によく合う。普通の煮魚とは一味違った、みぞれ煮の美味しさを楽しむ和風のお弁当。

ラスガレイのみぞれ煮弁当の本体価格５９０円（税込価格６３７．２０円）、カラスガレイのみぞれ煮単品の本体価格３９０円（税込価格４２１．２０円）。

企業レター

全世界で500万本出荷

カプコン

「バイオハザード　RE:3」

バイオハザードＲＥ３

カプコン（９６９７）はＰｌａｙＳｔａｔｉｏｎ４、Ｘｂｏｘ Ｏｎｅ、ＰＣ向けゲーム「バイオハザード　ＲＥ：３」を全世界で５００万本出荷した。

１９９９年に発売した「バイオハザード３ ラストエスケープ」のストーリーや設定にアレンジを加え、自社開発エンジン「ＲＥ ＥＮＧＩＮＥ」など先端技術を活用することで、原作をプレイ済みの人にも新鮮なゲーム体験を実現したリメイクタイトル。昨年の「東京ゲームショウ２０２１ オンライン」で発表された「日本ゲーム大賞２０２１」において、年間作品部門「優秀賞」を受賞するなどユーザーから高い評価を獲得したことに加え、継続的な価格施策やＰＣ版の販売強化といったデジタル販売戦略の推進により着実にユーザー層を拡大した。

記者の視点

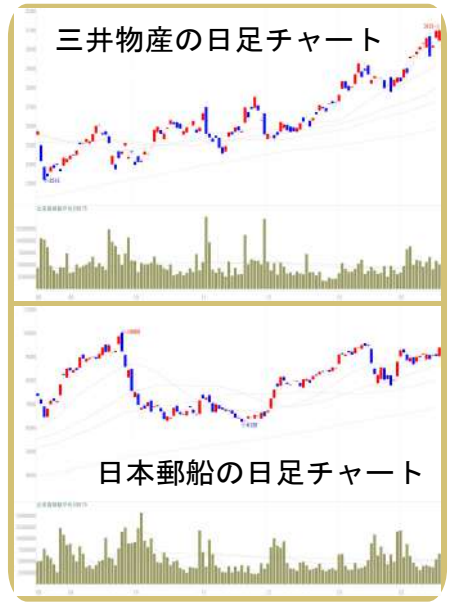
相場見通し

ウクライナ情勢を注視

内需株の更なる上値に期待

2月第3週の株式市場は、ウクライナ情勢の報道で乱高下する動きになった。ウクライナ情勢の結末を読み取るの不可能だ。来週は21日がプレジデンツ・デーでニューヨーク市場は休場、23日は天皇誕生日で東京市場が休場になり、日米両市場が立ち合いとなるのは3日しかない。休場中は時間外の先物やCMEでの225先物がニュースに反応して乱高下する可能性もあり、様子見気分の強い展開になろう。イベント的には米国では22日にメドトロニック、23日にブッキングHD、24日にクアンタ・サービシーズとインテュイットが決算発表を予定、航空券予約プロバイダーのブッキングHDはオミクロン感染拡大の影響が懸念されており、内容次第では他の銘柄の株価にも影響を与えよう。

個別ではバリュー株物色の流れで**三井物産**（8031）などの商社株や**日本郵船**（9104）が高値追いとなり、一方で**東京エレクトロン**（8035）や**レーザーテック**（6920）など半導体製造装置大手は売られる展開。今週もこの流れに変化は無さそうだが、オミクロン株がピークアウトが明確になれば**JR東日本**（9020）などの電鉄を目指す可能性もあろう。



当面のスケジュール

- 18日　米1月中古住宅販売件数(19日0:00)
- 21日　休場:米(プレジデンツ・デー)
- 22日　1月企業向けサービス価格指数(8:50)
  独2月Ifo景況感指数(18:00)
  米12月S&PコアロジックCS住宅価格指数(23:00)
  米2年国債入札
- 23日　休場(天皇誕生日)
  米5年国債入札
- 24日　米10-12月期GDP改定値(22:30)
  米1月新築住宅販売件数(25日0:00)
  米年国債入札

編集後記

寒い日が続いている。ラニーニャ現象の予報から覚悟はしていたが、ここまで寒くなるとは思っていなかった。朝はファンヒーターだけでは部屋が温まらず、エアコンを併用している。大手気象予報企業によるとアプリユーザーの過半数が「いつもの冬よりも寒い」と回答したという。ただ、25日を境に翌日からの1週間は平年より気温が高く、3月には最高気温も4・4度も上がり一気に春めくらしい。

東京市場も寒々とした状況だが、週明けには変化の兆しが見えてくるだろう。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。